

## 団体名 特定非営利活動法人クローバーの会@やまがた

見守り活動のタイトル： おやこよりそいチャットやまがた（山形市子ども見守り宅食食品等調達・宅食訪問支援業務）  
キャッチコピー ゆるやかに相談を受ける中で、よりそいながら必要な情報提供・支援へ

代表 樋口愛子

住所 山形市南原町1-27-20

連絡先 023-664-2275

ウェブサイト：<https://clover-yamagata.jimdofree.com/>

団体活動開始：2015年4月

## 見守り活動の概要

- 定期的な食糧支援を行うことで、見守りを継続しながら、育児や生活の困りごとに寄り添い続ける。
- 訪問の際の情報提供で、当法人の学習支援につないだり、地域の子ども食堂や山形市のひとり親家庭子育て生活支援事業（家事代行支援など）につなぐ。

## 見守りエピソード/ストーリー

- 当法人の「女性の居場所づくり」や「子ども食堂」や「フードパントリー」活動へつながることが出来たので、市の宅食事業が終結したご家庭と継続して関わることが出来ている。
- 情報提供により、子どもの発達障害や離婚後の困りごとなどの相談窓口につなげることができ、孤立を防ぐことが出来た。
- 不登校で自宅で過ごすお子さんとの関係づくりがうまくいき、お手紙をもらったりしているうちに、エネルギーがたまったようで登校する日が出てきた。

## 活動写真



## 見守り活動のポイント

- 一つの家庭に複数の見守りの目がある（認定NPO法人フローレンスのデジタルソーシャルワーカー、山形市こども相談室、山形市社会福祉協議会）ことで、困難を抱える家庭を自団体だけで抱えずに、すべての関係者の様々な立場や広い視野で支援計画を考えることができる
- 訪問型の見守りなので、子どもの安否や健康状態をなるべく目視にて確認する。
- 訪問により家庭の暮らしぶりがわかることで、食糧支援だけでは見えてこない課題の発見ができる。
- 訪問の際、近所の目が気にならないような配慮をしている。（名札を首からぶら下げない、服装に気を付ける等）

## 見守り活動をはじめた背景

### 【本当に必要な人に支援が届いていない現状があった】

●これまで、当法人では自主事業による『みどりこどもひろば』という取り組みをしてきた。具体的には、子ども若者食堂とフードパントリー（食糧支援）である。しかしそこには、自分の力で情報を取り、連絡ができて、拠点に来ることが出来る人がほとんどであった。本当に支援を届けたい「助けて」の声をなかなか上げられない人々、情報が届きにくい人々、車を所有していなかったり、病気で拠点に来ることが出来ない人々と、どうつながるかが課題であった。そこで、タイミングよく山形市で令和4年度に子ども見守り宅食事業が始まり、当法人のこれまでの活動実績が評価され、訪問による困難を抱えた家庭の見守りの担当をすることとなった。特にひとり親家庭支援の経験から、生活困窮世帯の中でもひとり親家庭を中心に関わることになった。

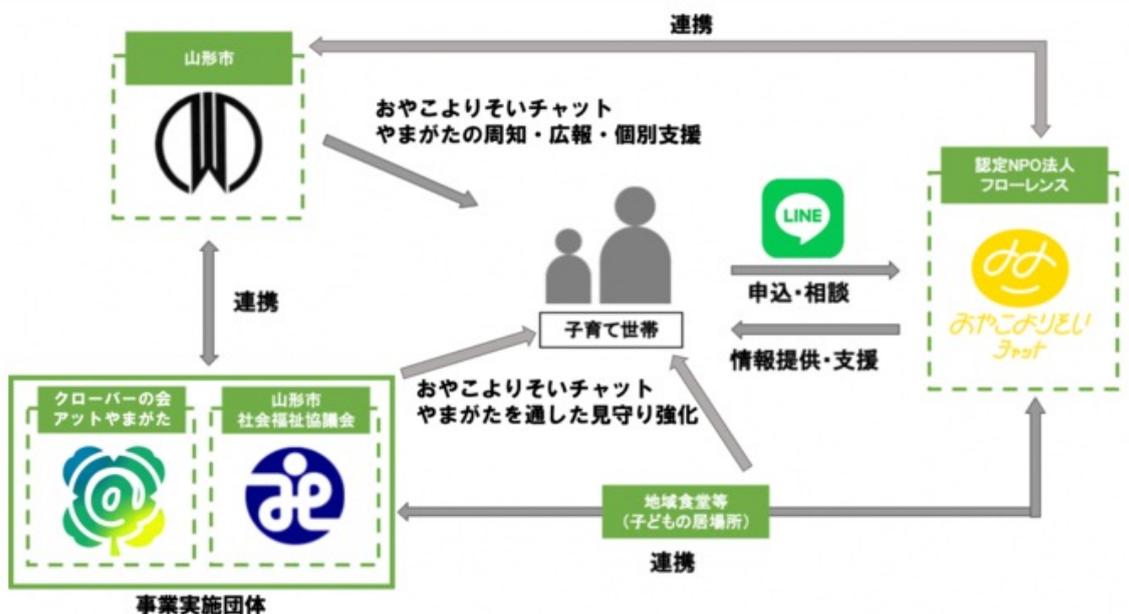
## 対象／頻度／内容

- 対象者  
ひとり親家庭、生活困窮家庭、つながりの貧困や子ども不登校や発達の問題を抱える家庭
- 対象世帯  
およそ50世帯
- 場所  
おやこよりそいチャットを通じて申込のあった山形市内の世帯のご自宅
- 頻度 1ヶ月に1～2回程度
- 内容  
見守りの必要な家庭に、事前連絡・日程調整のうえ、食料品を持ってご家庭にうかがう。30分から1時間程度、ご家庭の様子や悩みをお聞きしてくる。

## 見守り活動において抱えている課題

- 終結後のつなぎ先が少ない
- 持参する食料品の調達
- 訪問の日程調整の際に途中で連絡が途絶えてしまうケースがある

## 見守り活動を行う組織体制図



## 他団体との連携

- ・ 上記の組織体制によってすでに複数の団体との協働関係が構築されている
- ・ これまでの当法人の活動におけるもともとの連携（不登校・ひきこもり支援、女性支援などの各関係機関）を活かしながらすすめている
- ・ 他には、山形県ひとり親家庭応援センター、山形県子どもの居場所づくりサポートセンター、山形市子どもの居場所づくり支援センター、その他 NPO 団体、など。